

第5回

河内長野市の学校における

食育及び

中学校給食調査検討会議

平成22年 6月

河内長野市中学校給食調査検討委員会

式 次 第

開 会

1. アンケート調査結果報告について（資料 No 1）

2. 食育について

提言（案）について……別添資料参照

3. 学校給食について

実施方法について

資料 2 「選択制給食」（新聞記事）

資料 3 「学校給食たべ歩記」（新聞記事）

1. アンケート調査結果報告について（資料 No 1）

平成22年の5月に全7中学校において、実施したアンケート調査結果です。

アンケート内容……食生活等に関すること。

実施対象者 ……各中学校（7校）の各学年から1クラス抽出（対象者755名）

（保護者については、抽出した生徒の保護者755名）

教諭については、全員（181名）

2. 食育について

提言書（案）について……別添資料参照

3. 学校給食について

実施方法について

○単独調理場方式

- ・完全給食

実施市町村……和泉市、門真市、熊取町、田尻町、岬町

- ・選択制給食

実施市町村……富田林市

○共同調理場方式

- ・完全給食

実施市町村……大阪狭山市、四条畷市、交野市

- ・選択制給食

実施市町村……未実施

○スクールランチ（学校給食法上、学校給食と位置付けられていない。）

実施市町村……高槻市、柏原市、吹田市

学校給食には、上記の方法があります。

第5回河内長野市の学校における食育及び
中学校給食調査検討委員会議事録（要約）

日時 平成22年6月25日（金）

○事務局

定刻となりましたので、ただいまより第5回河内長野市の学校における食育及び中学校給食調査検討委員会を開催させていただきます。

それでは議事進行を議長であります委員長、よろしくお願いいたします。

○委員長

皆さん、こんにちは。

それでは、第5回河内長野市の学校における食育及び中学校給食調査検討委員会を開催します。

先ず前回の会議から少し期間が開きましたので、確認のため前回の会議の要旨について事務局から説明願います。

○事務局

4回目の会議の要旨を簡単に説明。

食育についての議論を行い、生活全体を見直す意味においても食育が大切であるという意見も出されました。

又学校における食育に関する指導の部分につきましては食育に関する指導に係る全体計画を作成し、関係職員が連携を図り協力しながら組織的に進める。

各教員の役割を明確にして相互に連携する。そして食に関する基本的な考え方や指導方針を明確にしていきたいとまとめられたと聞いておりますのでよろしくお願いいたします。

中学校給食についてはスクールランチ事業についてご説明を行い、また食育、生徒、保護者の観点及び学校運営の観点又行政からの観点から中学校給食について議論していただきました。

○委員長

事務局に前回の議論の概略をお話していただきました。何かこの点につきましてご質問ございませんか。

特に無いようであれば、本日の案件に参りたいと思います。先程おっしゃいました事務局の方でアンケート調査をしていただきましたが、食育、中学校給食の議論をする上で非常に関わってきますので、先ず食生活等に関するアンケート調査の結果を事務局からご説明願います。

○事務局

「食生活等に関するアンケート資料1 P 1～3」説明。

○委員長

はい、ありがとうございました。

食生活等に関するアンケートの各調査項目について、特徴的なところを皆さんに説明いただきましたが、これに関して委員の皆様何かご質問等ありましたら、又ご意見も有りましたよろしく申し上げます。

この調査結果を見ますと、大体予想された状況が出ているようですね。この結果は他市とそう変わりありませんか。事前に他市も同じ様な調査されているようですが。

○事務局

当市は、特に1週間に何回朝食を食べますかという部分につきましては全国平均より多いです。近隣市町村の率が80%のところ当市は83%になっています。ただ先程申し上げましたとおり2、3年生時に特に3年生になると78.5%非常に落ちている。このあたりが理由はわからないですけど教育委員会として気になる場所であると考えております。

○委員長

その点で他市も同じ傾向があったのですか。

○事務局

他市も同等では無かろうかと思っております。

○委員長

議事を進めたいと思います。ただいまのアンケート結果の説明を踏まえながら食育についての議論に移ります。第1回から4回まで食育について話を進めて参りました。食育について皆様からの意見を基にして食育についての提言をまとめていきますので、先ず事務局より提言案の説明をお願いします。

○事務局

「河内長野市の学校における食育及び中学校給食について(報告)」案を説明。

○委員長

はい、ありがとうございました。

提言の前に学校における食育について、食育は知育・徳育・体育の基礎となるべきものであり、生涯にわたって将来にわたる健全な心、豊かな人間性を育むとまとめられました。このまとめを受けて提言ということでそれでは学校職員はどうか、生徒との連携はどうか。

先ず提言の中身に入る前に3ページまでのところで食をめぐる現状と課題と背景、食育の推進方策、食育の指導ということで8項目、食育の推進の観点で6項目まとめてあります。ここまでご質問ご意見賜りたい。

食育ということは生活習慣病とかメタボとか大人の問題もありますが、早寝早起き朝ご飯、特に学力調査をも含めまして大阪の子供は朝早く起きるのが全

国的平均に比べて少ないという結果もありますし、あちらこちらの情報聞きますとやっぱり朝ごはん食べていない。それはそういう社会の変化それに子供も影響されるのですけれど、そういう状況にあって朝ごはん食べられないのは晩寝るのが遅いという単純なことなのですが、そういうことからすると生活の乱れとかマナーが関連してくるわけです。こういった観点について全て食育が基本になるだろうと思います。

家庭が基本ということですが全てそうかといいますと、やっぱり学校と地域と家庭この3者が連携することが重要であって、家庭だけに任せるということではなかろうと思います。色んな細かいことでも結構ですのでご意見よろしくをお願いします。

○副委員長

2ページ食育推進の観点の中で④の感謝する心、給食①の食事の重要性、子供達に食事の喜びを与えることがここに書かれてありますよね。このアンケート5ページ問い4で「問い2で毎日以外を選んだ方にお聞きします。弁当作れない理由は主に何ですか。」の問いに対する回答で、2年生はそうでもないのですが弁当持参するのを嫌がるというのがあります。中学生になったら弁当持って行くのを喜ぶと思っておりましたが、弁当持参するのを嫌がるというこの数字が非常に多い気がします。お弁当を作れない理由として子どもが持参するのを嫌がるのが多い。

そういう親に対する感謝の心といいますか、弁当作ってくれる人に対する気持ちですね。感謝する心と弁当持参するのを嫌がるとの間にギャップがある。そういう気持ちがどうして出てくるのでしょうか。

○委員長

食育と関連しているのですけれど、食生活等に関するアンケート結果については後でそれについて議論をお願いします。

○事務局

食育についての副委員長のご質問について想像で言って申し訳ないんですけど、中学生になると特に2、3年なってくると自我のめばえが発達してきて特に嗜好が発達してきます。又世間体もあったりして中々お母さんの弁当嫌がる部分がありまして、たまに自分でパンを買ったりコンビニの弁当買って来たりします。それが数字に現れている気がします。

○委員長

アンケート結果を踏まえて議論に入るのは当然のことですけど、特に今のテーマは学校における食育についての提言をまとめることですので、食育の大切さについて議論をしていきたいと思います。

それでは次に移りますが、この4ページが提言案です。

計画の必要性というのは、学校教育にも PDCA がございまして現状を踏まえた上で計画を作るのと同じです。無計画の行き当たりばったりというのは当然いいものは出来ません。つまり具体的にどういう食育指導をするのか。中学校での食育は弁当給食の有無に関わらず大切なことです。それを提言していかなければならないということでございます。この提言案に皆さん何か意見ありましたらお願いします。

4 ページ食育の指導の具体化⑤小学校でも弁当の日を設定すると書いてあります。新たな小学校での取り組みとして、単に給食だけに終わるのではなくて、子供達のそういう面での自ら弁当を作る弁当の日を設定する。その小学校の取り組みそれを受けて中学校への継続したカリキュラムの検討を図りたいと具体的な提言が入っています。ここは大変具体的になっているのですが、あえて取り上げたいきさつについて事務局から説明してもらえませんか。

○事務局

この検討会の議論の中でもそういう話もございまして、又今委員長にも申し上げたとおり小中連携の部分もあります。食育する上で先程申し上げました感謝する心、食事の重要性、身心の健康いろんな項目でそれが非常に重要ではなからうか、自分の体験としていけばよりいいのではなからうか、これだけここに具体的にさせてもらいました。具体的なことでいいかわかりませんが、

○委員長

特に問題ないと思います。私ども大学の方でも小論文を書いたり人に説明するとき、先ず結論言ってこれプレップといいますが結論言ってから、次にこれは何故かリーズンを言って、フォーエグザンプル例えばという話をすればわかりやすい。そしてもう一度結論を言う。こういう段取りで最近の学生に指導していますけど、そういう面で言うと具体的な例で言うとそうか、とわかりやすいのは事実です。ただ、これが全てということではありません。

これに限らず小中連携は当然必要な訳でして小学校だけ給食ありますが中学校では途切れている。しかし、食べる事は一生継続するものでありますから、そういうことからすると小学校の動きを受けてこれから先小中学校連携していきましょうと、カリキュラム面から小学校カリキュラムと中学校カリキュラムがリンクしていきましょうという提言になっているではないか。これでよろしいでしょうか。

食育についての議論は今までの話を提言案にまとめていただいたということでピリオドにしたいと思います。過去4回議論あったのをまとめていただいたこの提言案についてこれでよろしいか。この後で語句等と文言修正あった場合は事務局へ伝えてください。

それでは次の議題中学校給食に移ります。中学校の給食について一方の大きな柱としてむしろこっちが中心になっていたと思いますが、この前提として食育について過去4回の議論を重ねてまいりました。給食を実施すべきかあるいは現状のままでよいか色々な意見を賜った訳でございます。弁当の意義とか弁当持参できない子はどうするのかそういった事も含めて、給食の実施につきまして皆様の議論の中で一定の方向見えてきました。

そこで先程のアンケート調査結果で給食に関わる部分について事務局より説明を求めたいと思います。前回の事も含めまして更に議論深めて行きたい。それから皆さんの意見ちょうだいしたいと思います。それでは事務局から資料の説明をお願いします。

○事務局

「河内長野市の学校における食育」の「食生活等に関するアンケート資料1P 1～6」説明。

○委員長

ただいま事務局で説明していただきましたけれど、今回アンケートとってもらいましたので実情が具体的に把握できる。提言は最終回にこれを受けてまとめます。まとめるに当たりまして皆さんの意見をいただきたい。

○委員

今回このアンケートを河内長野市の全中学校で実施されたということで、前に他市のアンケート資料を見せてもらったことがあります。本市のアンケート結果を非常に興味深く見せてもらっています。1ページ下の問い2お弁当週を何回ぐらい持参していますかというところで毎日持っているのが71.1%非常に高い数字ですね。それと先ほど言われた最後の6ページ保護者の方の学校での昼食はどのような方法でとるのが良いと思いますかという問いで64.3%の保護者の方が学校給食いいと望まれていますのに、それでも毎日お弁当つくってもらっている子が71.1%、週3～4回持って来ている子が27.1%で合わせて98%の子供達が大体ほとんどお弁当で過ごしている。すごく母さん大変頑張っておられると思います。やっぱり仕事とかあって大変忙しい方がたくさんいらっしゃると思いますがすごく一生懸命お弁当作っていらっしゃると思います。私も昔必死で弁当作っておりましたので、そういうことも思い出しながら非常に高い数値だと思いました。

先程も前にいただいた資料で高槻市が全中学校で実施されたのですが同じようなアンケートありまして、同じように週何回ぐらい弁当持参していますかの問いに対して毎日52.8%、週3～4回42.0%ですから合わせれば高槻市も95%ぐらいで高い数値ですけど傾向としてよく似ていますが、細かい数値を比べますと河内長野市のお母さんすごく頑張って弁当作っていると感じま

した。

そんな風にして弁当持たせてもらっているから2ページの問い4で子供達生徒に学校の昼食どのような方法でとるのがよいかと思いますかの問いに対して、現状のままでよいというのが68.5%これも非常に高い数値だと思いますけど、これはやはり毎日ありがたい弁当作ってもらって、これに満足して喜んでいるのでこの数値高いのかなと思いました。

しかし先ほど所長が言われたように2ページ問い3のところで弁当持ってこなかったときに食べていない子が1年生0.4%、2年生2.6%、3年生3.4%ありまして食べていないということが非常に気になります。その子供達が本当に食べたいのに食べられないあるいは食べていないと回答しておりますけど、何らかの事情で持っていて食べていないのであれば、そういう子は何とか方法を考えないといけないのではないかと思います。細かい事情分かりませんが、市として対策考えていかないといけないと思います。

○委員長

子供達の意見と親の意見との間にギャップあるのは他市でも大阪全体でも全国でも同じ傾向が見られる。しかしながら河内長野のお母さん方は一生懸命弁当作っておられるし、子供がそれに満足している。おいしい弁当を作ってもらっていることがこの数値から見て取れます。ただもう一つ大変留意しなければならぬ点は弁当を持ってきていない子、数は少ないけど食べていない子こういうことについては何か手を打つ必要があるだろう、という委員の意見でした。私も同感です。

○委員

食べていない子がいることが、私の子の辺りでは全然聞いたことがないのでちょっと実感があまりありません。

○委員

いろんな状況があると思いますが、あまり弁当を食べていない子を見ません。そういう場合には担任が何らかの配慮しています。別の問題としてお金もってきてお金を貯めるため食べない子こういう場合ですね。弁当食べていない子をそんなに見ないし、もうとっぴなことで弁当頼むの忘れたという様な時は食べんでもいけるとい子もいるし、友達に分けてもらってる子もいるだろうし果たして実際どんな状況なのかと思います。

○委員長

例えば弁当代500円もってきて100円浮かして他に使うとかでしょうか。こういうところまでアンケートに出てきておりませんので分かりません。しかしこれを事実と受けとめた時にやっぱり十分に親の愛情受けていないとか、大変忙しくて家庭の事情あるのかとか、そういう生活体験とかを奥深く読む必

要もあると思います。特に弁当を考える場合には一つの足場として要るのではないのでしょうか。

○副委員長

微々たる数字であっても大変な事だと思います。昼食しか食べられない子色々聞きましたが、小学生なんか特に朝食べないで昼食の給食だけで1日1回しか食べないというのも聞いております。朝食を作らない親とか朝未だ寝ていますので学校へ行って給食を食べる。1日その給食1回だけ。中学校になってもそのまま同じです。

健全な周りの中でも見えないところもある。お金を貯めるためにわざと食べていない子もいるかもしれませんが、実際お金もらえないで食べられない子もいるのでその辺の苦しい事情もどうにかしなければいけない。

○委員長

世の中豊かな時代といわれていてもそうでもない。児童虐待等ある中でそういう実態もあるだろうし、例外的に考えるのではなくて今の現代を把握していないといけないと思います。

○副委員長

貧困でもない。お母さんがさぼっている場合もあり又作れない場合もある。

○委員長

いろんな解釈できる。委員ご意見いただけますか。

○委員

アンケート結果を見て本当に数字だけで60%とか2%とか本当に図れない部分有ります。先程中学生の現状について話をされたと思いますけど、食べていない子の理由は本当に分からないですし、食べられない子がいたら何らかの対応をしているはずです。数字でこの子達を何とかしなければということでも市が大きく動く必要があるのか色々考えたんですけど。

副委員長が言われた5ページ問い4ですけど、理由で弁当作る時間がないからとかありましたがこれは選択枝ですよ。この選択枝はどれもみんな理由にならない理由ではないかと思いました。弁当を作る時間がないのが理由になりますでしょうか。時間は作るものですし、子供が嫌がるから作らないのであれば子供が嫌がらないよう言ってあげたらいいと思うし、それこそ感謝の気持ち持つよう育ててあげればよいことだと思います。

この設問項目で親が負担感じているという形で書いてありますが、例えば洗濯物の話を聞かれたら私もどれかに○を付けたらと思いますが、めんどいとか畳むのいややとか聞き方によっても大分違うなと感じます。弁当作りだけではなくてどんな家事でも仕事でも色々な負担は感じている。それは大人ですから親ですからしょうがないと思います。それが負担でその負担を何とかしなければ

ならないといって市が大きく動く必要があるのかとすごく感じます。データだけで判断するのは本当に難しい。

○委員長

数字のマジックもありますしアンケートの取方自身でご指摘いただいたような点もあるかもしれません。何かほかにご意見ありませんか。

○事務局

学校給食の実施方法について説明。

○委員長

具体的提言もありましたし、富田林市の中学校給食についての新聞記事の切り抜きもあります。読売新聞にも1ヶ月間ぐらい給食の在り方の記事が載っていました。これも相前後しますが委員からアンケート結果の取り方等も言及されました。又弁当たくさん持ってきているという事実そして親については給食をお願いしますよという意見がありました。親と子のギャップについてはこういう理由だとご指摘いただきました。

これから生活様式も変わってくるし母親が働きに出る。単に親のそういう面では手を抜きはダメよということでは言いきれません。現状としてとらまえないといけないこともあるでしょう。そういうことからすると中学校の学校給食については必要性云々となってきます。

中学校給食について色々ご意見もらいましたがもう一つこれとありましたら、それを聞いた後で中学校給食のあり方の方向性をまとめていきたいと思えます。委員何かご意見ございませんか。

○委員

私は現在中学校に勤務しております昼食はずっとお弁当です。中学生がお弁当食べているのを見てきましたけれど、現在中学生が食べている様子ですね、昼休みになると家庭で父母に作ってもらった弁当を開いてその様子を見ると非常に微笑ましい。にこっとするんですね。そして残さんと食べる。言われなくても出来る。そんなところからずっと見てきて、そして給食の検討委員会でいろんな話を聞かせていただきまして、私自身はやっぱり弁当がいいと基本的にそう思っております。ただアンケートの回答で食べていない子がいます。弁当を持ってきていない子がいます。弁当持参できないためパンを買っている子がいます。そんな子はなんとかしなければならない。

ただ中学校で給食をした場合に前回でも色々な話をさせていただきましたが、学校運営上の課題があります。例えば準備やかたづけとか全体の指導という部分で言いますと、今の時間帯プラス10分は必要と言わしていただきました。そういうところや人員の問題とか色々な問題が上がってきます。その辺を十分考慮した上で給食の実施をお願いしたいのが現状です。私は弁当持参が基本で

すけど保護者はそれに対して協力的にしています。ただ保護者の本音を聞かしてもらったらやっぱりちょっと助けて欲しいなというところです。そういう直接の話とこのアンケート結果その辺を踏まえて中学校の今後の方向性考えてもらえたらどうでしょうか。

○委員長

親の思いには非常にデリケート微妙なところあります。

大阪の中学校の給食が全国で一番遅れている。パーセンテージも今高槻吹田柏原市ときて10%ぐらい超して来たのでしょうか。その前は6%全国で最も低かった。大阪の中学校の実情があるわけですが、多数意見が大阪の弁当文化は親子の愛情を発揮しているととらえているものです。

給食も大事弁当も大事。弁当のない子の家庭や作らない家庭を含めて親は朝と晩の食事については一生懸命やります、お昼の弁当ぐらいお願いします。これが本音なのか気持ちの上での手抜きなのかよくわかりませんが、中学校給食への期待度という意味で大きいものがあります。河内長野市のアンケートにも出てきましたしそれが親の姿勢としていいのか悪いかよくわかりませんが、いずれにせよ期待は無視できないと思います。

これ余談ですけど昔私が中学校教師していたときに弁当持って行っておりました。今はどうなっていますのでしょうか。生徒と一緒に弁当をグループで食べます。その時弁当の蓋よう開けん子がおりました。あえて私は、子供の何かきらびやかなにぎやかなのおかずに対して、おかず一品茶色系のおかず等を入れた弁当を連れ合いに注文して学校へ行きました。何故かと言いますと弁当の蓋開けられない子は他の子に弁当見せんの嫌や、子供同士が弁当のおかずを見合ってそれ何といった議論に入っていけないからです。どうしても弁当の蓋が開けられない子、他の子に弁当の中身を見せられない子がいた。そういう子をみたとき教師としては華美に走ることは止めなくてはいかんということで常に最低限のおかずにしまして、先生も蓋を開けて弁当食べるから一緒に食べよ。そういうことで競い合うものと違うと大昔言った様な気がします。

そういうところからすると子供達特に思春期中学生ぐらいになりますと、余計そういう面での気持ち入ってくるのではないのでしょうか。そういうことからすると何か給食ありましたらそう云う点で悩まなくて良い状況が作れるのではないのでしょうか。だから親に弁当を作ってもらわないでパン代もらってパンを買いに走っていると思ったりもします。深読みすれば何かそういうことかのかなと思ったりします。

ここまで中学校給食のあり方について議論を進めてきましたが、家庭から持参することについて子供達が願っていることを基本的踏まえないといけないと思います。しかし何らかの理由で家庭から持参できない子の理由は表に出ない

色々な面もありますが、やっぱり市として給食とか何らかの手だてしなければならない。

もう一つの大前提として食育があります。健康や栄養価とかこういった面を配慮した給食も必要です。昼食を通じての食育これがきっかけとなって食育についての大切さを育む機会になります。しかし委員が言われました様に給食が学校現場で色々な形で負担になる。学校運営に極力支障無いよう配慮しなければなりません。弁当とパンと給食いずれにせよ選択出来る方法ありましたらよいのではないのでしょうか。

そういう方向性で言いますと全中学校で選択、即ち弁当持参を基本としながらもそれ以外は給食していきたい。具体的には選択性で河内長野市独自の学校給食。他の市でやってないもの100点満点とれなくてもそれに近い形で色々なニーズを踏まえた給食やっていくことがまとめになるかと思います。皆様の意見をお聞きしながら考えた事ですけどいかがでしょうか。

○委員

その方向で行くと思いますけど、どのような人間を育てたいかといつも思います。結局どんな形にしても大方の生徒は弁当を持ってきますでしょうが、弁当持ってこない子は給食という弁当を買いますよね。晩は外食ですよね。家で何時食事を作るのでしょうか。それを子が学んで大きくなっていくのですよね。すごく不安です。時間がないとか嫌がるとか手間がかかるからとか、それを学んで子供は大きくなっていく。果たしてそれでいいのでしょうか。色々な思いわかりますけど福祉的な部分の色合いが濃い形で動いていくのだろうか色々なこと考えています。親保護者のお弁当作りも食育、指導も食育じゃないのでしょうか。すごく大きいテーマです。私は、なんだか納得しているようで納得できない。反対ではありませんがどんな人間を育てていくのかな、この河内長野はという気がします。

○委員

私は小学校の時に自分の子どもが6年間給食だったので給食が普通でした。義務教育ですし、中学校もそのまま完全給食だったら一番いいなと、あまり深い理由ありませんでした。でも委員がおっしゃる様にこの親御さんの理由ですね、自分は給食があつたらいい言いましたがこういう理由であつたらあまり納得いきません。

それと富田林市の新聞でコストが高くつくと書いてありまして私のところのPTAで費用が高くつく7億円と始めて聞きまして、この数字が合っているかどうかわかりませんが借金になると聞きました。それを聞いたのは先月ぐらいだったので。もしも本当に子供達のことを考えるのなら、給食がいいと言っておりましたけれど、もしも子供達のことを考えるなら借金になるのならそ

ここまで今しないといけないのでしょうか。前回の検討会議から4ヶ月ぐらい空いたので色々考えまして借金なるなら子供達の将来ために言ったら、中学校は3年間だからどれぐらいの借金になるのかわからないですけどそれでいいのでしょうか。

○委員長

先程委員の意見も非常に重たい意見ですが非常に重要な視点です。これはいづれにせよ給食するしないにかかわらず、これから将来逞しい子供達を育てていくというに注目すれば絶対に逃してはいけないことです。食育という指導全体計画の中で改めて重要なポイントとして載せていきたい。そのことを抜きにして、ただ手間を省けるからお願いしますのを受けて、その所に重点を置いてしまっただけでは今回の皆さんの議論を無視することになると思います。食育の重要性については絶対今その視点を抜かない。そのため河内長野の98%の親御さんが弁当作りは大変だと思いながら作っていらっしゃる。しかも私は弁当の中身を直接見ておりませんが栄養のバランス考えて作っていらっしゃると思います。それについては今後も継続してお願いします。忙しいけどやって下さいという話はメッセージとして言っていかなければいけません。

ただ一方でそれは分かっているけど親御さんが弁当やっぱり作れない。それで子がパンを買ったりしている。日常的に困っている子供達のことを配慮しない訳には行かない。そういう面をこれから先踏まえていかなければ、その子供達のこととはどうなっているのかとなるでしょう。その辺りまで考えていくことが私達に求められているのではないかと思います。

○副委員長

委員のご意見でやっぱり昼は給食で食べさせて夜は外食させたらで、今後河内長野どうなっていくのだろうというご意見でしたけど、だからそういうお母さん方父兄に対して食育をもっと重点的にしていかなければならない。お母さんが旬の筍ご飯豆ご飯作らなかつたら当然子供達も食べたことがないですよ。

しかし家で食べたことがないのを給食に出てくるとしたら給食で食べられる利点出てくる。好きなものばかりお弁当に入れるけど、給食で嫌いなものが出たら僕は家で食べていないあるいは食べられない食材を給食で残してくる。食育を通じてそういう食材を食べて、そういうのが段々重なると、こういうのが体にいいと経験でわかってくる。給食で出なければ分からなかった食材も分かってきたと、そういう利点もあると記事にも書いてありました。

一長一短で私も給食で教育的対応しますが十分利点を考えますと徐々に選択性の給食もいいのではないのでしょうか。

○委員長

建設的なご意見ありがとうございます。要するに食育という視点で大きく括

らなければならない。単にお願いしますよといった給食はよく考えないといけません。給食その他以外でも学校の熱意が中々親御さんに届かないということもありますが、幸いなことに河内長野は地域性といいますかそういったことも良く理解していただける保護者が多い。地域と学校と家庭が給食をきっかけとして繋ぎあって、更に学校教育でご協力いただき、食育を介して子供の栄養バランスだけでなくマナー等も含め巻き込んでいく。それについて教師はそれが負担と言うことはならないと思います。基本的な生活指導、生徒指導の領域だと思います。

食育の理念をきちっと踏まえ親の教育というとおこがましいですけど、親御さんの本当の意味での協力をいただくということを絶対抜かさないで進めていきたい。委員の皆さんどうでしょうか。それらを踏また上で栄養のバランスや感謝の心を伝えていく。まとめとしてそれでよろしいでしょうか。

○委員

少しだけ戻りますけど、提言の文章なのですが、こだわっているのは実は4ページの提言⑤ですけど、何か少し繋がらないと思います。結局食の自立的な部分といいますか、自分で食を作っていける、食を創造していける人間を育成ということですね。これを自分で体験してやってみるきっかけにという意味でここに書いていると思います。食の自立的な子供を育てていく為に小学校から中学校へと計画性を持つ。弁当の日は弁当作りを子供が自ら体を動かして汗を流して体験して行って、それが食の自立的な部分となる点をもう少し書いた方がいいのでないでしょうか。

○委員長

よくわかります。事務局それでよろしいですか。

○委員

もう一つ食育々学校で言うておりますが、本当に学校現場は時間有りません。いくら出来るか10時間ぐらいできるかもしれないと思っておられますがとんでもありません。学年担任に1時間捻出してもらいたいと言うのも中々難しいです。ただ給食は毎日ありますのでその部分で食育、短い給食時間でもあの時間を工夫すれば最大の効果が挙げられる部分です。担任が毎日の筍ご飯出てきたら筍なああと生徒に言う、豆やなあ豆で何かできるなかと生徒に聞くと生徒から豆腐知ってる、きな粉やお醤油も知っていると返事がきます。あの時間が短いと本当に生きた指導の場になるので、その辺のところここに載せなくてもよいのでしょうか。

食育云々言われておりますし学校でしなければならないことはわかっております。やりたいですがその責任もわかっていますが本当に徹々たるものです。だから家庭でやっていかなければなりませんし、頑張っているお弁当作っ

てるお母さんたちをバックアップする市の体制が要ると思います。給食には反対ではありません。選択性で弁当を選べることは今の時代に合っているのかもしれませんが、給食の工夫とか給食便りにすごくいいこと書いておられるのに給食の時間のことあまり書いて無いのでどうでしょうか。今小学校の食育は給食の時間にメインにやっております。毎日できますから。

○委員長

食育といっても食育の時間という形で取るのが難しいという意見もありました。

○委員

難しいです。

○委員長

今おっしゃった中身は正しいと思います。親が作らなくても子どもご飯ぐらい自分で炊けるだろう。自立するという理念を含めて提言すればいいと思います。

皆さんのご意見本当に重たいテーマを含め大事な意見たくさん言っていたが、ありがとうございました。最後の方で大体結論めいたこと申し上げましたが、市当局のほうで、次回までに本日議論したことを基にして提言案をまとめていただきたいと思います。次回で最終回になりますが更にご意見をお聞きした上で、中学校給食のあるべき方向性を具体的な提言としてまとめていきたいと思います。

次回の会議の日程について。事務局案では7月26日（月）と考えておられますが、いかかでしょうか。

（日程調整により7月26日に決定）

○委員長

次回は7月26日（月）の午前10時に開催します。

本日はありがとうございました。

○事務局

ご審議していただきまして、ありがとうございました。